Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（関　　東）２００１年９月

住環境教育に関する基礎研究
記憶に残る場所から見た人間学的空間[注] の考察*

正会員　○後藤さゆり※
同　　在塚　礼子※※

住環境教育　体験　記憶　人間学的空間

1. 研究の目的

住環境に対する認識は、近代化に伴い機能性や効率を重視した価値観によって捉えることを余儀なくされてきた。住環境教育では、人間性によって構築されている空間を認識の基点に置き、住環境に対する価値観の再構築を試みる必要があると考える。本報告では、記憶されている空間から人間学的な空間を捉えようと試みた。同じ場所の空間体験に対する考察が重要と考え小学校の空間を対象とした。調査対象とした宮代町立笠原小学校は、象設計集団によって、たくましく心豊かな子どもを育てるための環境、自然と親しみながら生活できるような空間、様々な学習方法を試みることを可能にする環境を目指して設計され、1982年３月に完成した。笠原小学校は裸足の教育をはじめ独自の教育活動を行っている。児童は個性的な器である校舎や校庭と、その中で展開される教育によって成立した学校空間を体験している。

本報告では、笠原小学校に６年間在籍した卒業生を対象に、どの様な空間や体験が記憶に残り空間のイメージを創りあげているかを調査することにより、住環境教育の基礎となる子どもの空間に対する認識と体験の関わりを明らかにして、考察を加える。

2. 研究の方法

笠原小学校に1983年４月入学の卒業生104名にアンケート調査（1998年６月）を実施。回収個人票数は20（男子８、女子12）。、５名に対しヒアリング調査を実施。

3. 結果（遊び場と遊びの思い出）表１

アンケートでは、場所の選択肢としては39個所を挙げたが、回答された場所は14個所であった。よく遊んだ場所としては、中庭を中心とした場所や、大階段、グランドが学年を超えて記憶されているが、低学年では教室に設けられている畳コーナー、中学年では裏山、高学年では大階段及びそこを上ったテラスが特徴的場所である。

4. 結果（印象に残る場所）表２

印象に残る場所は、遊び場としてよく活用されていた場所とは異なる。例えば、グランドは、どの学年でもよく活用された遊び場であったが、ここでは挙げられていない。家のようにくつろいだ格好で読書を楽むことが多く述べられた畳コーナーは、ここでは自分が特別な扱いを受けられる場所として、同じ教室内でも床張りの場所とは異なる空間として記憶されている。遊び場としては挙げられなかった廊下がここでは多数挙げられた。半野外空間である廊下の印象は、開放感や冬の寒さ、足の冷たさといった体感である。廊下や大階段は、雨や雪が降ると大変だったとは認識しているが、不便とは認識していない。記憶による空間は行為を通した感覚と一元化し、意味を象徴している。

小学校で感じた自然は、白爪草の花や廊下に積もった雪、中庭の木々や芝生の緑等、視覚的な印象が多い。その他にもヤゴや蛙等の生き物との思い出や、裸足で遊んだ芝生の感触によって自然の心地よさ、豊かさが記憶されている。

アンケート調査によって、記憶による空間の断片的要素を明らかにすることができた。そこで、この人間学的な空間の全体像に迫るため、ケーススタディを基に考察する。

5. 結果（ヒアリング調査から捉える印象）表３

（ア）Ａ氏は小学校の印象の話題では中庭の緑については語っていなかったが、話題を「好きな場所」に変え、緑が好きな理由を考えることで笠原小での記憶が蘇った。記憶による空間には、視覚的なイメージ、裸足で歩いた芝の感触、遊びの思い出、教師の中庭に対する姿勢という視点が盛り込まれている。これは、ある一つの場面で構築されているのではなく、６年間体験し続けた経験が積み重ねられて構築されていることを示している。また、記憶による人間学的空間には、教師の態度が児童に影響を与えている。（イ）はＡ氏が住みたい場所について語った時の言葉である。近隣と親しい関係になりたい理由として想起された。Ａ氏は、校舎という物理的空間と教師の教育的雰囲気という心的な空間が相互に影響し合って規定した空間を記憶に留めていた。（ウ）Ｂ氏は、大階段はクラスや学年を超えて集まる垣根のない人間関係の象徴として記憶している。反対に、畳コーナーやお話コーナー、小屋手摺、裏山などは外部から見えるため、視覚的には閉鎖的でないにもかかわらず、集団とは区別された個人的な空間として記憶している。しかし、小学校の話題から離れた住環境の話題では、この空間体験に関連した発言はなかった。よって、Ｂ氏は空間を行為と感覚によって使い分けた記憶があるが、物理的空間が人間の心情によっても規定されることに対しては明確な認識を持つに至っていないと考えられる。

ヒアリング調査によって明らかになった記憶による空間のケーススタディは、複数の要素と時間の積み重ねによっ

A Basic Study on Dwelling Environmental Education
Considerations about Anthropological Space based on Memorized Place　　GOTO Sayuri, ARIZUKA Reiko

NII-Electronic Library Service

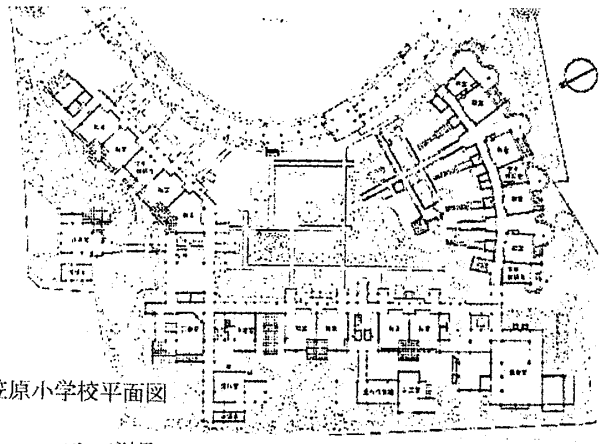
Architectural Institute of Japan

て重層的に構成されていた。そこでは近代で重視してきた機能や効率に対する要素は認められなかった。この空間と日常の住環境との関わりは、A氏のように話題を重ねることで上手く結びつく場合もあれば、B氏のように上手く結びつかない場合がある。これは、住環境教育において、記憶による空間を教育の対象とすることの有意味性と、現実の住環境を人間学的に再解釈するための課題を示している。

6. まとめ

本調査では、記憶による空間は、空間が物理的尺度で認識されているのでなく、遊びなどの行為や五感といった人間性を通して構築されていることが分かった。つまり、記憶による人間学的空間は、人間の行為の意味を象徴している。しかし、この空間が示している意味は、近代的価値だけでは明確にできないため、自分の住環境に求める価値と結びつけるためには、人間学的視点からの再解釈が必要である。ヒアリング調査での結果は、子ども時代に形成された空間認識を住空間に対する価値へと結びつけることによって、住環境に対する理解が深まる可能性を示唆している。

注）哲学的人間学に基づく人間学的視点から捉える空間を指す。O.F.ボルノーは人間と空間との関わりを哲学的人間学の立場から「人間の生の空間性」として論じ、客観的抽象的空間と区別した。



笠原小学校平面図

表3　ヒアリング結果

(ァ)なんで緑を好むのかって、今思うと、なんか笠原小って緑がすごく多い、中庭とか。教室から外をみても緑がすぐ目に入ってくる。中庭は全部芝生で、クローバーが咲いたり、木もあって、廊下に出ると緑が目に入ってくる風景を思い出した。緑があふれてたなという感じ。それが気晴らしと同じ効果のような気がする。中学とか、高校とか普通は、グランドに向かって校舎があって、窓の外をみるとグランドしかない。緑に囲まれた空間はない。だから、中庭のこの空間って良かったなと思う。今笠原小を思い出すと、建物の全景がうる覚えなのと、緑があふれてたなという感じ。裸足で芝生を歩くとくすぐったい感じがして楽しかった。カエルを捕まえて、男の子が女の子を追いかけたりした。先生方も芝生を大事にしていた。秋の紅葉もきれいだったし、冬は一面雪になる。なんで緑が好きなんだろうって考えたら、そういえば笠原でずっと緑見てたなって。だから落ち着くのかなって。

(イ)笠原小の壁の無いのが好きだった。壁が無いせいかな、クラスっていう枠が無くって、誰とでもしゃべった。壁が無いから、心の壁も無いみたいで、みんなすごく社交的だった。

(ウ)小学校と言ったら大階段。広いしみんなで遊べるところだから。教室にもベンチ（お話コーナー）があるけど、秘密の話や、内緒話はベンチで、大階段はみんなの居るところだった。

表1　遊び場と遊びの思い出　() 内数字は回答数

中庭（11），中庭の小山（3），ジャブジャブ池（3）	・中庭全体を適当に走り回ったり、池でヤゴや、ゲンゴロウなどを捕まえたりした。 ・ゴム跳びをよくしていた。クラスの友達と遊ぶことが多かったけれど、休み時間は1年生の子も一緒に遊ぶこともあった。
グランド（11）	・校庭には鉄棒しかなく、ボール遊びしかしなかった。3クラスで対抗し、放課後も遊んだ。
低学年棟前庭（3），裏山（4）	・裏山は「基地」だった。仲良しグループでままごとをして遊んだ。 ・裏山で、土を掘って、砂場のように水を流して遊んだ。 ・白爪草でネックレスやカンムリ、指輪などを作ったり、四葉のクローバーを探した。
教室（2），畳コーナー（4），お話コーナー（2）	・日の当たる畳の上で、本を読んだりした。 ・畳コーナーで、座って本を読んだり、寝ころんで絵を描いたり、お弁当も食べた。
音楽室（1），図書室（1）	・音楽室では女の子同士で集まって、トランプやおしゃべりをしたり、楽器を弾いたりしていた。 ・一人でいるときは図書室へ通った。暗い感じがして寂しかった。
大階段（5），テラス（4）	・当時はゴム段が流行っていて、朝学校についてから、休み時間毎にひたすらゴム段をやっていた。 ・階段の数を一つずつ数えたりして遊んだ。段がとても多かったから、数えるのが楽しかった。

表2　印象深い場所　() 内数字は回答数

教室（5），畳コーナー（2），流しと低学年教室トイレ（2），ベランダ（1）	・休み時間に教室で相撲をした。床の色や形、教室のガラスの脇にある、手作りのステンドグラス、廊下の柱に入っている詩のような言葉。掃除の時間、手摺り等校舎を拭くと、雑巾がピンク色になった。 ・一年生の時、教室の畳の所で毎日交替で、12人ぐらいで、先生と一緒にお弁当を食べたのを覚えている。自分達だけ特別席なのよ、と思って少々優越感を覚えた。
廊下（10）	・壁の無い廊下。開放的で息苦しくない。 ・自然の中にあるような感じ。学校と感じないところ。 ・廊下の柱一本一本に都道府県名が書いてあった。よく名前を呼びながら遊んだ。 ・冬寒かったのも覚えている。廊下はつらかった。 ・雪が降った日に、廊下に雪が積もったこと。
大階段（4），テラス（1）	・ピンクの大きな大階段。よくその階段で遊んだ。 ・大階段は雨が降ると大変だったけれど好きな場所。
低学年棟前庭（2）	・クローバーや雑草の影に、蛙がいっぱいいて怖かった。 ・第1学年の教室の前の小山に、たくさんの白爪草と、クローバーが咲き乱れている風景。
中庭（6），足洗い場（1），古代遺跡のような場所（2）	・大階段から見おろした笠原小の中庭。自然がいっぱいという感じでとても印象深い。 ・中庭は春になると緑が多くなり、すごくきれいだった。 ・裸足で中庭で遊んだ。自然の中で暮らしている感じ。 ・中庭の中にある坂と四角い部屋（遺跡のような所）。かくれんぼをするには良い場所だった。 ・中庭でお弁当を食べたのが楽しかった。
藤だな（4）	・校舎や校庭の全体を見渡せる藤だな。満開になった藤の花がとてもきれいだった。
校舎全景(6),	・一番印象に残っているのは、建物の形。中でも、文字の書いてある柱と足洗い場。あと瓦屋根。

※ 東京学芸大学連合大学院（博士課程）
※※ 埼玉大学教授・工博

※ Graduate School, Tokyo Gakugei Univ.
※※ Prof.,Saitama Univ.,Dr.Eng.

NII-Electronic Library Service